



バスハイク 葛西臨海水族園

はじめてバスハイクに参加して  
 事務次長 川腰 喜久夫

私はセンターに来て二年目になりますが、今回初めてバスハイクに参加させていただきましたので利用者様のうれしそうな情景をお伝えしたいと思います。

昨年度は計画されたバスハイクが新型インフルエンザの流行により年度途中で中止となり、残念な思いをされた利用者様も多かったのではないのでしょうか。このため、今年度は利用者様一人ひとりが最低でも年に一回は外出できようバスの手配と人員体制の確保を図りました。

五月二十七日、今日は病棟のバスハイクです。昨夜の雨も明け方には上がり、バスがセンターを出発する頃には太陽も顔を出し、絶好のバスハイク日和になりました。目的地の「東京都葛西臨海水族園」に着いた頃には、文字通り風薫る五月晴れとなり、あまりの強い日差しのため、利用者様の中にはサンングラスを架ける方も見受けられました。また、今年度からは利用者様が一人でも多くバスに乗れるよう、ご家族の方にはご不便をおかけしますが現地集合で付き添いをお願いするようになりました。

水族園は平日にもかかわらず、幼稚園児、小中学生、高齢者等多くの方でにぎわっていました。中でも二千二百トンの海水を湛えるドーナツ型水槽に百匹以上が泳ぐマグロは人気があり、大きなマグロが回遊してくるのを待ち、マグロをバックにツーショットを撮る利用者様も見られました。もう一方の人気者で、陸上ではよちよちとユーモラスに歩くペンギンも、水中では空を飛ぶ鳥のように羽ばたきながらスイスイと華麗に泳いでいました。短い時間ではありましたが、利用者様とご家族の方たちは久々の外出を大いに楽しんでいました。

最後に、私たち事務職員は、日ごろ利用者様と接する機会が少ないのですが、できればバスハイクなど色々な催しを通して利用者様とご家族とのコミュニケーションを今後も図っていききたいと思っています。



葛西臨海公園 大観覧車

## 通所歓迎会

四月十六日（金）、五名の新通所者を迎えて歓迎会が行われました。

午前の式典では有馬院長をはじめ、家族会、出身校の先生から激励の言葉をいただき通所全体で新年度のはじまりを迎えることができました。また、「通所紹介」のスライドショーでは新通所者だけでなく参加者全員で、行事など通所の一年を振り返りました。

午後からはミニコンサートを行いました。はじめに家族有志による「お弁当箱の歌」の手遊びがありました。次に職員有志によるトランペットとサクスの演奏、ディズニー音楽などを中心に演奏者がそばまで来て楽しく盛り上がりました。おわりに利用者全員で歓迎会に向けて練習してきた季節の曲を披露しました。間奏で新通所者の自己紹介もあり、職員も一緒にみんなで歌や、楽器を鳴らして盛り上がった雰囲気です。コンサートを終えました。新たなメンバーもそろって今年も楽しく賑やかな通所になります。



## 歓迎会

## 通所運動会

平成二十二年六月六日に幼児通所の運動会と懇談会が行われました。当日は八組三十三名のご家族が集まり、大変賑やかな運動会になりました。

当日は普段は通所に参加されることの少ない、お父様や祖父の方々も多く参加されました。そのため、いつもはお母様と実施しているマッサージを兼ねての体操もお父様方に実施していただき、皆様慣れない手つきで奮闘されていました。

運動会では選手宣誓に続いて、車椅子競争を実施しました。これは競争といっても、小豆の中から紙粘土のマークを見つけ出したり、すすらんテープのトンネルをくぐったりするもので、小豆の感触を楽しんだり、トンネルの中と外の変化を感じたりするもので、お子様方とゆったり、じっくり取り組んでいただきました。優勝者にはメダルと共に通所の畑で収穫した美味しいお芋の副賞のおまけも付きました。

運動会の最後には出席者全員で車椅子ダンスを行いました。小さいご兄弟も一緒に参加され、手拍子や笑い声が響き幼児通所のお子様方も本当に楽しそうでした。

続いて行われた懇談会では「幼児通所で色々な経験ができ、楽しい」とい

う感想が多く聞かれました。又、「父親だけの付き添いの通所日という企画もしてほしい」というお父様自身からの嬉しい提案もありました。

## かもめ分教室

## 入学を祝う会

四月七日に平成二十二年度かもめ分教室入学を祝う会がセンタープレイルームにて行われました。

今年度の新入学は中学部のみで、五名の方が新中学生となりました。当日は、ご家族、学校関係者、センター幹部などの他に、病棟職員や同じ病棟の利用者の皆様も多く列席していただき、にぎやかでとても温かい雰囲気の中で、一人ひとり入場されてきましたが、正装に身を包み、とても大人っぽく感じられ、ご家族の皆様も感慨深い様子で見守っていらっしゃいました。

これから三年間の中学生生活が始まりますが、たくさん経験を積み、多くの楽しい思い出を作っていくだけだと思えます。

最後に新入学の五名の皆様、本当におめでとうございます。



## 入学を祝う会

## 幼児通所入園式

平成二十二年四月六日に幼児通所新入園児二名を迎えて入園式が行われました。

有馬院長の挨拶に続き、新入園児紹介では保護者の方と共に自己紹介をしていただき、好きな遊び等を教えてくださいました。

幼児通所は新入園児も加えて、登録児が十四名と賑やかになりました。それに伴い、通所開設日も週四日となりました。

式の最後に全員で「ともだちになるために」を、これから一年間仲良く、元気で通園できるようにとの気持ちを込めて合唱しました。



## 入園式

## 保護者懇談会が開かれました

この五月に乳幼児通所・通所・入所のそれぞれの利用者様の保護者との懇談会が開かれました。センターからは今年度の事業の方針や職員の配置状況、利用者様へのサービスの状況などについて説明しました。そのあと、保護者の方々との意見交換がなされ乳幼児通所では、送迎のことなどについてご意見をいただきました。通所では、バイタルチェックの手順や今後の利用日数の調整の問題など、また入所では年末年始など祝日が続く際の利用者様の入浴サービスの確保や夏季のペランダの日よけ設置のご要望などがありました。

この集まりは年二回行われていますが、保護者の皆様との意見交換は利用者様へのサービスの向上やセンターの運営にとって貴重なものです。ご意見ご要望にはすぐに、すべてに対応はできないかもしれませんが、これを受け止め努力してまいります。

平成二十二年四月一日から医療の透明化や患者様への情報提供を積極的に推進していく観点から、保険医及び保険医療担当規則が改正され、コンピュータシステムで医療費の請求を行っている保険医療機関には、領収書を交付するに当たり医療費の内容が分かる明細書を無償で交付することが義務付けられました。

明細書には、初診料または再診料や使用した薬剤の名称、行われた検査項目、リハビリ項目並びにそれらの診療報酬点数が記載されます。（診療報酬点数は一点＝十円。利用者様には、一部（三割負担など）ご負担いただきます。）

当センターでは会計の際、無償で交付していますが、明細書を希望されない方はお申し出いただくようになっております。

なお、全額公費負担等の領収書の交付のない利用者様には、明細書の交付は義務付けられていないため交付していませんが、お申し出いただければ交付いたします。

## 医療費の明細書の交付について

## 東部なくに

エレベーターにはないのに

階段は五階がある？

階段は、非常階段を除き職員通用口と地域療育支援室の側の二箇所にあります。地域療育支援室側の階段は、四階までで終わりで登り終えると事務長室前になっていきます。（どうぞお越しください。事務長がお待ちです。）

もう一つの階段は、四階を登りきるとさらに上につながっています。階段は、五階屋上につながる扉にぶつかり、普段は施錠されています。

屋上には、空調設備の排気口などが設置され、パイプが横に這うように幾重にも重なっています。扉の付近には、さらにコンクリート壁に囲まれた階段を上る六階？があり、上水や雨水のタスク塔が設置されています。

見学ご希望の方は、用度係へどうぞ。なお、エレベーターの五階は、同じ職員通用口側のエレベーターにありますが、保守点検用として使用しているため通常は四階までの運行・表示にしています。



五階エレベーターと六階？への階段

## ボランティア紹介 名和 巖郎さん

私は、十五年前病院勤務の頃、仲間とカメラを始めました。最初は院内の災害避難訓練の模様や病棟のクリスマス会などの行事を記録していたのですが、そのうち外来や病棟に写真を撮示することにになりました。退職後も病院の了解をいただき活動を続けています。この間カメラ教室に参加し、初歩からプロの写真家の指導を受けました。

当センターには、二〇〇七年四月からお世話になっております。数年前からデジタルカメラに替えました。主に四季折々の風景や草花などを撮っています。撮影後パソコンに落とし画像をみますが、満足できる写真はごく僅か、毎回恥ずかしさを覚えながらお届けしています。でもめげずに、続けていきたいと思えます。



センター四階から見える「スカイツリー」

## 新人紹介

今号は佐藤医師と浅野看護長をご紹介します。

### 佐藤育子医師

小児科の佐藤です。東京出身ですが、これまで東北大学小児科に所属し、小児科医として一般小児や新生児、地域医療の他に、小児神経科医として臨床や研究に携わってきました。療育分野では宮城県拓桃医療療育センター（肢体不自由児施設）で、脳性麻痺や発達遅滞、中途障害の子どもたちと関わってきました。重症心身障害児施設での勤務は初めてで、この障害児はどんなだろう、という思いでやってきました。予想以上に、病棟は成人が、外来は発達障害が多く、戸惑ってばかりですが、なんとかかやっていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 浅野京子看護長

四月一日付で入職いたしました浅野です。私は今まで三十余年、都立病院で勤務してまいりました。いろいろな部署で勤務いたしました。療育にたずさわるのは今回が初めてです。

さまざまな職種の方と連携し、一緒に仕事ができることがとても新鮮です。

まだまだ緊張の毎日ですが、生き生きと仕事をしている皆様の姿に励まされています。今までの経験を生かし、利用者の皆様が安全にそして安楽に生活していけるよう活動していきたいと考えています。

東部療育センターの一員として、頑張っていきたいと思っています。ご支援宜しくお願いいたします。

## 東部あれこれ

### 四月

九日、十六日の二日間、荏原、板橋の両都立看護学校において看護師就職説明会が行われました。現在センターでは、看護師確保の努力が功を奏して離職者が少なくなり、短期入所の受入れ延べ者数も前年四月と比べると十五倍になっています。今後も職員定着を図り、利用者サービスの向上に努めて参ります。

### 五月

十七日は看護の日のイベントが開催されました。外来受診者及び入所者家族を対象に、健康相談、健康チェック（血圧、体脂肪、皮膚保湿度測定）、褥瘡ケア相談、栄養相談等を実施しました。

### 六月

十六日、平成二十二年度の日本重症児福祉協会からの永年勤続表彰状が有馬院長から各受賞者に手渡されました。今年度は益山診療部長、佐藤薬剤師、山際作業療法士、吉田主任看護師、園田看護師の五名が受賞されました。



受賞された皆さん

センターでは、利用者様のサービス向上のため、第三者委員を招聘してサービス向上委員会を設置し、利用者様からの要望、苦情等の解決に努めています。このたびは第三者委員一名の変更がありましたのでお知らせします。

新たに就任された委員は、江東区社会福祉協議会事務局長の平松宏章様です。平松様は、江東区の厚生部長、高齢福祉部長、保健福祉部長、区民部長等を歴任され、長年にわたり住民福祉の向上に努められてきた方です。利用者の皆様よろしくお願いいたします。

## 編集後記

六月十四日付けで関東も梅雨入りしました。雨の日が多く気分も滅入ってしまいがちな中、小惑星探査機「はやぶさ」が十三日、地球へ帰還しました。はやぶさは二〇〇五年十一月、地球と火星の間の軌道にある小惑星イトカワに着陸し、岩石を採取。その「成果」を収めたカプセルがオーストラリアの砂漠へ無事着地しました。小惑星は、太陽系が誕生した約四十六億年前の姿を今も保ち続けているため小惑星の物質を直接分析することによって、太陽系の歴史や成り立ちについて新たな発見が期待できます。はやぶさが持ち帰る物質は、カプセルに入っているため大気圏通過時の熱変化や落下後の地球環境による汚染の影響がないため貴重な資料となりそうです。数々の危機を乗り越えた成果は、重大な故障に見舞われながらも帰還した一九七〇年のアポロ十三号に匹敵するよう思えてなりません。

